

## 第1回三重県総合交通ビジョン策定懇話会 議事要旨

- 日 時：平成25年10月21日（月）13時30分～15時30分
- 場 所：アストプラザ 会議室1（津市羽所町700番地 アスト津4階）
- 出席者：（委員）池田委員、草部委員、谷口委員、西脇委員、野村委員、  
松浦委員（副座長）、松本委員（座長）、水谷委員（50音順）  
（事務局）三重県地域連携部交通政策課

### ■懇話会の検討スケジュールについて

- 各懇話会での検討項目やスケジュール、全体のフローチャートを示すべきである。

### ■交通課題の整理について

- みえ県民力ビジョンでの交通課題との繋がりに留意して、本総合交通ビジョンでの交通課題を整理する必要がある。
- 空間スケールで課題を仕分けするのではなく、人々の生活に根ざした視点での整理もあってよい。

### ■三重県の交通の現状分析について

- 交通事故の分析は、全国のデータではなく、三重県内の交通事故の統計があれば、三重県の特徴的な交通事故の傾向がわかるのではないか。
- 高齢者でも75歳以上になると免許返納が多くなり、交通手段選択が変わってくると思われるので、パーソントリップ調査の75歳以上の個票データに基づいて、一人一人の動きをつぶさに見ると、高齢者の行動目的や動きの実態が見えてくるのではないか。
- 現況や将来の75歳以上人口分布を、地図上にメッシュデータとして示せれば、どの場所で75歳以上の人口が多くなるかがわかり、どこに公共交通が必要とされているかがわかると思われる。
- 県境をまたいだ日常的な動きもあるので、隣県との間の移動がどの程度あるのか分析をするべきである。
- 中山間地域の買い物難民や買い物の実態、災害時の実態、危険箇所、通院実態などを把握できないか。
- 人々の動きのみならず、道路の交通量の経年変化も捉えていただけるとありがたい。

### ■公共交通について

- 公共交通の利用促進のための情報提供にあたっては、公共交通の内容そのものを伝えるのではなく、利用者のニーズに即して、利用者の属性や目的（仕事、観光、地域活動など）で細分化した上で目的を提案するべきである。
- 公共交通の取組は、交通事業者と行政がいっしょになってやるのが重要だが、今までは欠けていた。右肩上がりではない時代には、官民協働で取り組む姿勢が

必要である。

- 公共性が重視される公共交通機関と、大量の需要を効率的に輸送することが求められる大量輸送機関は区別して考える必要がある。
- 高齢化の進展によって、人々の移動が広く細い線になってきているので、それをどう支えるかが課題となっている。
- 今後は利用者の減少とともにバス路線が減ってくるため、代替移動手段として、コミュニティバスやデマンドバスなどが導入されても、民間やNPOで単独で運営するのも難しいので、今後は行政からの補助金を増やさないと地域公共交通が成り立たないと思われる。
- 子どもも興味を持てるような、公共交通情報が直感的に理解しやすいスマートフォンのアプリなど、ITを使った情報提供の仕組みで公共交通の利用のハードルが下がるのではないかな。
- ヨーロッパはいろいろな交通手段を一元的に情報提供しているので、県を挙げてあらゆる交通の情報を提供できると面白いのではないかな。

#### ■自動車と公共交通の役割分担について

- 公共交通と自動車との関係や役割分担には正しい答えがないが、20年後の姿を可能な限り想定し、検討すべきである。
- 公共交通と自動車はどちらかを選ぶという二択問題ではなく、使い分けが重要である。適切な使い分けができる程度までは、公共交通を促進し、自動車の利便性を下げる施策を採ってもよいのではないかな。

#### ■災害について

- 将来の大きなビジョンは防災の視点も必要であり、ビジョンの中に災害に強い交通網を据えていただきたい。
- 災害時に地域間（山間部と海岸部）で相互に支える意識を持たせられれば、三重県としての一体感を醸成できるのではないかな。
- 三重県内の地域間の相互連携を図ることができるような交通網の整備が必要である。

#### ■広域交通ネットワークについて

- 三重県の交通は都市からの放射状の路線になっているので、ループ性がない。広域的に見ると、三重、奈良、和歌山を結んだ路線も考えられる。
- 三重県のみで整理するのではなく、地域生活圏の実態に合わせて広域的な視点で隣接府県との交通のつながりも含めて検討してほしい。

#### ■自転車交通について

- 環境の視点から見ると、自動車依存から公共交通への転換を図るという方向性の他に、自動車以外の交通機関を使えるようにするという点で自転車の利用を進めるのも重要な施策であると思われる。

- 観光客用のレンタサイクルも有用ではないか。

### ■総合交通ビジョンの目標時期となる20年後について

- 高齢者になると、行動範囲が今とはかなり変わると思われるので、20年後の自分を想像してもらうような提案ができるかよいのではないか。
- 人口構造の変化や自動車に対する興味の低下により、自動車を運転する担い手が減少することから、自動車を運転しない人の交通手段が弱くなるという認識が必要である。
- 環境技術の進歩と比べ、公共交通の低公害車への置き換えは速やかには進まないことに対して、環境対策と合わせて今後どう考えていくかが重要。
- 行き交う情報量が増えた結果、人々は興味のある情報しか受け取らないようになっているため、公共交通の情報が行き届かないという状況が起きる中で、どう情報発信していくかが問題となる。

### ■移動のあり方について

- 移動をどう捌くか以上に、どう地域を元気にするか、人々の生活を豊かにするかという視点が欠かせないのではないか。そのためには、移動するための目的を提案することとセットにすることが、三重県の魅力向上や地域の人々の生活向上に繋がるのではないか。
- 移動性の評価指標を、早く安くだけではなく、移動の質の向上や移動を楽しむ、人生の満足度・幸福度を上げるという観点で考えていくべき。最終目標は県民の幸福度の向上であり、そのための移動の質の向上であるべきだ。